

消防団員の公務災害発生状況 (平成 26 年度発生事故認定分)

1 平成 26 年度の公務による負傷者等

平成 26 年度中の消防団員の公務による負傷者及び疾病者 (以下「負傷者等」といいます) の人数は、1,187 人 (うち死亡者 1 人) ※となっています。

※平成 27 年 5 月 25 日までに基金が支払った人数です。

2 活動態様別に見る公務災害の発生状況

活動態様を「非常時」と「平常時」に大別すると、「平常時」に発生した公務災害は全体の 8 割を超え、「非常時」の公務災害を大きく上回ります。

活動別に見ると、「演習訓練」中の事故が最も多く (827 人、69.7%)、次いで「火災」(178 人、15.0%) となっています (図 1)。

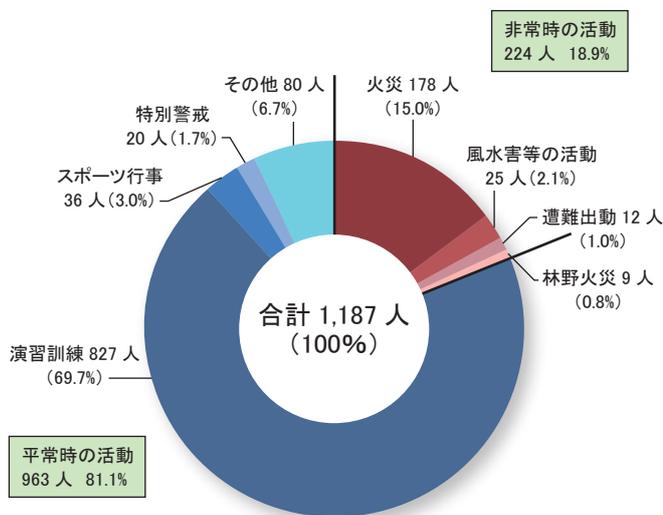


図 1 活動態様別公務災害発生状況

図はありませんが、「火災」での消火活動では、地面の凹凸や側溝、ホースなどに足を取られて転倒する、足をくじく、火災現場のくぎを踏み抜く、トタンや割れた窓ガラスで手を切る、などの事故が多く見られます。

3 「演習訓練」時の事故発生状況

全体の 7 割近くを占める演習訓練時の事故発生状況を詳しく見ると、次のとおりです。

演習訓練での負傷者等は 827 人です。このうち、723 人がポンプ操法による事故で 87.4% を占め、高い割合となっています (図 2)。

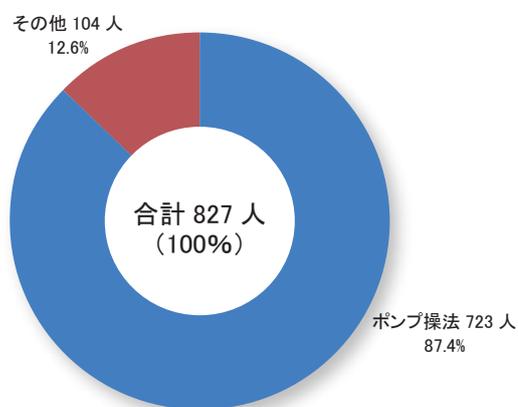


図 2 演習訓練中の公務災害発生内訳

また、演習訓練時の負傷者等を事故の型別で見ると、「動作の反動・無理な動作」による災害が 514 人と全体の 62.2% を占め、これに「転倒」(102 人、12.3%)、「激突され」(52 人、6.3%) が続きます (図 3)。

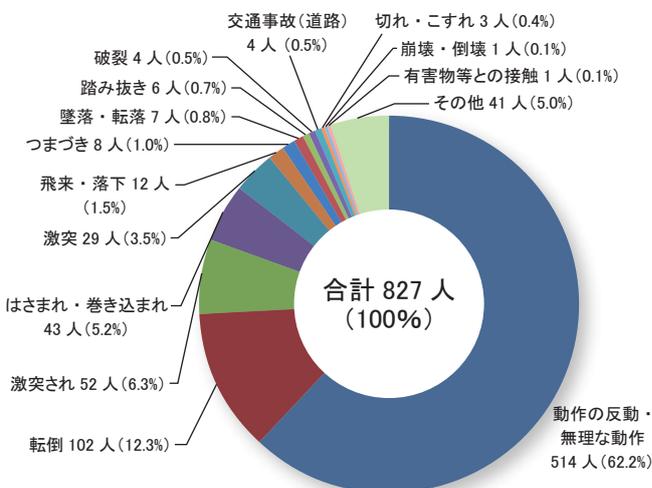


図 3 演習訓練時における負傷者等の事故型別人数

次に、傷病部位別で見ると、「下肢」が483人で全体の58.4%を占め、次に「上肢」(131人、15.8%)、「胴体」(121人、14.6%)の順になっています(図4)。

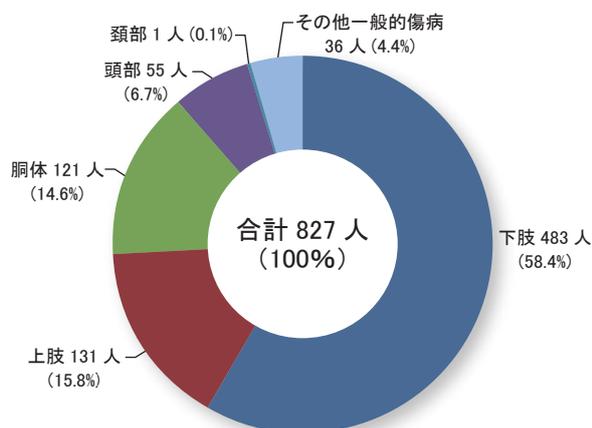


図4 演習訓練時における負傷等の傷病部位別人数

傷病名別の人数では、「打撲傷・挫傷」が508人で全体の61.4%を占め、次いで「脱臼・捻挫」(122人、14.8%)、骨折(88人、10.6%)の順になっています(図5)。

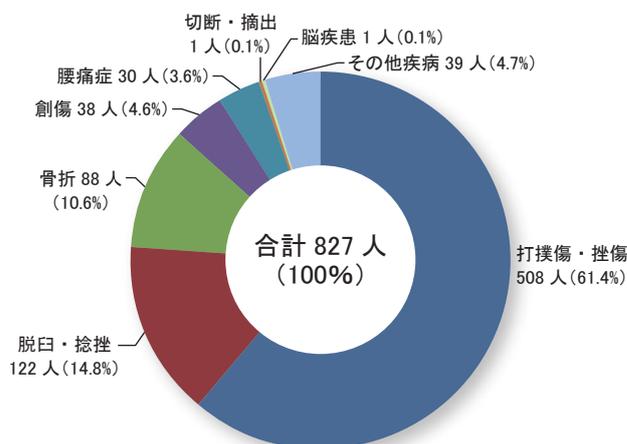


図5 演習訓練時における負傷者等の傷病名別人数

なお、演習訓練時の事故事例をいくつかあげますと、次のとおりです(表)。

表 演習訓練時の事故の主な事例

事故の型	事故内容
動作の反動・無理な動作	アスファルトの駐車場で、とび口を搬送して構え、とび口を置き、向きを変えて発進した直後、足に激痛が生じた(右腓腹筋肉離れ)。
転倒	ポンプ後方に吸管を伸ばしようとした際、地面のくぼみにつまずき、吸管を保持したまま前方に転倒、膝をコンクリート地面で強打した(左膝蓋骨骨折)。
激突され	1番員としてホースを投げようとしたときに、指揮者の筒先とホースの結合部の金具が上唇に当たり負傷(口唇切創)。
はさまれ・巻き込まれ	3番員として車両から下車し、ドアを閉める際、ドアに指を挟み負傷(左環指末節骨骨折)。
激突	2番員として操法訓練中、車両後部のステップ上に置かれたホースを取ろうとした際、ステップに手をぶつけ負傷(左第4指基節骨骨折)。

4 公務災害防止のために

消防団員の公務災害はいつでもどこでも起こり得ます。

消防基金は公務災害防止のために、4つの研修(「安全管理セミナー」「S-KYT研修」「健康づくりセミナー」「災害救援ストレス対策研修」)を推進しており、市町村等の行う研修を積極的に助成・後援しています。消防団員の安心・安

全を守るため、ぜひ当基金の研修事業をご利用ください。

研修事業の詳細は、お気軽に当基金企画課までお問い合わせください(03-3595-0544)。

当基金ホームページの「各種ダウンロード」からもパンフレット『研修会のごあんない』がダウンロードできます。

消防基金

検索